

文化情報

会報 Vol.399
令和6年7月1日発行
SINCE 1961
一般財団法人
北海道文化財保護協会

〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7ビル9階 電話・FAX;011-271-4220

Website; <https://hokkaido-bunkazai.jp>

e-mail; bunho@abelia.ocn.ne.jp

富良野地方初の
登録有形文化財

島田家住宅主屋



白しゅくいと籠子下見板張が特徴の外観

島田家住宅主屋は、富良野市街地・本通りに所在する木造平屋の純和風住宅である。令和6(2024)年3月6日に富良野地方初の登録有形文化財として登録された。

建物は市内布部地区の相田木材(株)役員であった島田家先代当主が、昭和16(1941)年に建築した個人住宅である。当家息女の女学校通学のため、事務所と木工場のある布部市街を離れ、富良野市街に住宅を設けたのであった。相田木材(株)は東京帝国大学附属北海道演習林の請願による昭和2年の布部駅(本年3月閉駅)設置を契機に南富良野村から移転、当地で製材事業を拡大した経緯があり、当家はこうした歴史的背景と密接な関係がある。建築施工は市内の建築業者で、資材は当主が勤めた相田木材(株)からエゾマツやアカエゾマツ、オニグルミ等の良質な地場産材が提供された。同28年頃には勝手口のある北東側を増築、風呂場等を設えた。

外壁は腰壁を腰高の籠子下見板張、上部を白漆喰塗、屋根は勾配の緩い入母屋屋根を基調に、細身の垂木を細かく配置するなど繊細な書院造風の上質な外観である。内部はほぼ建築当初の間取りや造作が残り、陽当たりの良い南面には縁側と和室3室を並置、納戸・便所などは廊下をはさみ北面に配置する。また玄関正面に脇床付の取次の間の空間を備え、玄関と居間の傾斜天井には棹縁と丸木、竹を組み合わせた茶室風の仕上げが見られる。当地方では稀なこのような意匠は、東京都世田谷に所在した親戚の和風住宅を参考に造作されたと伝わる。

現当主は近年までここで英語塾を運営、地域住民から思い出の学び舎として親しまれる存在でもある。なお現在も家人の住宅であり、一般公開はしていない。

(富良野市博物館学芸員 澤田健)